

守ろう農地 進めよう地域を担う人づくり

今日、我が国では出生率の低迷や平均寿命の伸長などにより、人口の減少とともに少子高齢化にますます拍車がかかり、生産・消費などの経済活動に影響を及ぼすだけでなく、社会の様々な面での影響が懸念されております。特に農村地域では、都市部を上回るスピードで高齢化や人口減少が進行し、農業の担い手不足とともに、農地等の維持管理や地域コミュニティ機能の維持にも支障をきたしております。また、平成30年からの米政策の見直しや、農産物の市場開放など、農業情勢は先行きが不透明な状況にあります。

本町の農業は、くりやまの特色を活かした多様な農業経営が展開され、安全・安心で良質な農畜産物を安定的に供給するとともに、美しい農村景観を形成するなど、町民生活に潤いと豊かさをもたらしております。農業は本町の基幹産業として商工業者とも深く結び付き、地域の経済と社会を支える重要な役割を担っております。しかしながら、農家の減少と高齢化、生産現場での労働力不足、消費者ニーズの多様化など、様々な課題に直面しております。

本町では、平成14年に第1期栗山農業ルネッサンスを策定し、以来、5か年ごとに計画を見直し、本町農業・農村の役割を踏まえつつ、情勢の変化や課題に的確に対応しながら、将来に向けて持続的に発展していけるよう、活力と潤いのある農業・農村を目指し、計画的に推進してまいりました。

この間、農業者が必要とする農業振興事業を展開し、農業基盤の整備と農地の流動化を進め、農畜産物の生産振興や有害鳥獣対策、後継者対策や新規就農者対策などの人材育成に力を注ぎ、近年では、ようやく新規就農者が定着し始めてきたところであります。

このたび、これら15年間の実績を踏まえ、「守ろう農地 進めよう地域を担う人づくり」をキーワードに、平成29年度を始期とする第4期栗山農業ルネッサンスを策定いたしました。

栗山町農業振興公社が中心となり、農地中間保有事業の実施や、地域農業を将来にわたり支えていく後継者や意欲の高い新規参入者の育成・確保など、栗山町ならではの農業振興策を展開し、地域農業の持続的発展を目指しております。

この計画の推進にあたりましては、町、農業振興公社、農業関係機関・団体、農業者のそれぞれが役割を分担し、連携して取り組むことが重要ですので、関係各位におかれましては特段のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、農業者の皆様、地域を代表する農業推進委員の皆様、農業関係機関・団体の皆様には、貴重なご意見やご指導をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。

平成29年3月

栗山町長 椿原 紀昭